

寺報

令和元年八月
第八十三号
正念寺護持会発行
常陸太田市久米町二一―
電話 〇二九四―七六一二〇五八
FAX 〇二九四―七六一〇一六九

お寺でライブ！？ 一期一会落語会

いちごいちえ

秋の「お寺でライブ！？」は、落語を行うことになりました。この落語や講談などの話芸は、『節談説教』が元となり誕生・発展したものと言われたおります。そういう意味では、仏教と落語はご縁の深いものがあるかも知れません。

例えば、「寿限無」という落語は、浄土真宗では最も大事にされているお経の「無量寿経」とも関わりのある話ですし、「小言念仏」なんて題名に「念仏」が入っています。まあ内容は、殺生戒を揶揄したもものになっていますが、短いものですので、ごく簡単にどんな内容か書いてみましょう。

『親父が、仏壇の前で小言を言っている。

ナムアミダブツ、ナムアミダブツ。

なんだい、鉄瓶が煮立っているじゃあないか、

ほらほら何か臭ってくるよ。飯がこげてんじやないかい、

花に水ウやれ

と、さんざんブツブツ言った後、

「表にドジョウ屋が通るから、ナマンドブ、ナマンドブ、

買つときなさい、ナアミダブ、

ドジョウ屋アツナムアミダブ、

鍋に酒エ入れなさいナムアミダブ、
一杯やりながらナムアミダブ、
あの世行きやナムアンドブ、
極楽往生だナムアンドブ、
畜生ながら幸せなナムアミダブ、
野郎だナムアンドブ、
暴れてるかナムアンドブ、
蓋取つてみなナムアミ、
腹だしてくたばりやあがった？
ナムアミダブ、ナムアンドブ、ざまアみやがれ』

ザツと書くところのような話なのですが、念仏を称えながらドジョウの命を奪うところなどは、殺生戒がありながら、ドジョウを食べるなど在家も出家も殺生戒を破っていると皮肉っているのではないのでしょうか。まあこれも出家の側から言わせれば、生きるって事は常に他の命を奪っているという事なんだよ。だから、命を粗末にしてはいけないよ、となるのでしょうか。

落語の中に仏教の言葉が出てくることは結構多いものです。いまの『小言念仏』のように『念仏』が出てきたり、他にも『後生鰻』には『後生』が出てきます。そんな、仏教と切っても切れないご縁のある『落語』で、秋のひとときをお過ごし下さい。ただし、演題はまだ判りませんが。

日時 九月二十八日(土)十四時開場・十四時半開演

場所 正念寺本堂

演者 二松亭ちゃん平(社会人落語で日本一)

相模亭とげ蔵

参加費無料ですので、沢山の方のお越しをお待ちしております。

寺院巡り旅行のご報告

六月十七から十八日と一泊二日の日程で、茅ヶ崎の来恩寺さんの参拝や鎌倉の観光に行つて参りました。今年は、十三名とチョット寂しい参加人数でしたが、旅行自体は楽しい時間をすごくことができました。

今年は、午前八時の出発とゆつたりした計画です。横浜の中華街で昼食をとり、その後茅ヶ崎の「来恩寺」さんに参拝しました。

来恩寺さんの本堂は、住職がハワイの別院に勤務していたことも関係しているとのことでしたが、教会によく見られる横長の据え付けの椅子形式になっておりました。お内陣も既存寺院にはあまり見られない形で、新しい価値観を教えられました。



橋本住職のお話も、ハワイ開教時代の話からお念仏の話まで、参拝させていただいた一同、本当に有り難い思いで聞き入っております。その後、二階の広間に移り、坊守様や婦人会の会長さんでしょうか？住職とともに暖かいお茶・お菓子の接待を受け、予定時間を超えて楽しくも有り難い時間を過ごさせて戴きました。

十五時を大きく回って、当日の宿箱根湯本温泉「天成閣」に向かいました。

二日目は、鎌倉の観光がメインですが、江ノ電に乗り長谷寺へ向かいました。江ノ電は、始発駅から乗ったにも係わらず、地元の人達や観光客で満員になりました。家の塀すれすれを通る江ノ電の魅



いかと自画自賛しております。

この「寺院巡り」ももう五十年近くにわたって行っておりますが、近年は参加者も少なくなっており、この旅行も転換期を迎えているのかな？と言う気がしております。皆さまのアイデアがありましたら、是非お知らせ下さい。

グラウンドゴルフ正念寺杯 第二回報告

第二回の正念寺杯は、三月二十六日に大方運動広場で行われました。参加者も三十名を超え、楽しく和気藹々と出来ました。

優勝は、大方町の「井坂 豊」さんでした。おめでとうござ

います。最後は、皆さんでお弁当をいただき解散しました。

来年も沢山の方のご参加をお待ちしております。



新^{しん}発^ぼ意^ち結婚のご報告

お陰さまで新発意も三月二日に正念寺本堂において結婚式を挙げました。まだ若坊守の「希^{のぞみ}」は、仕事を続けておりますので、寺の仕事を覚えるまでは、どうぞ皆さまには温かい目で見守って戴ければ幸いと存じます。

現住職の私もまもなく高齢者の仲間入りをする年代となつて参りました。後期高齢者と呼ばれる年代までには、住職の交代もあるだろうと思います。それまでに若い二人が、寺の仕事を覚えられるよう、どうぞ皆さまのご協力をお願い致します。



護持会役員のご紹介

護持会の役員が決まりましたので、ご紹介致します。

護持会々長 仲村 義信様
護持会副会長 井坂 浩様
会計 萩野谷 一二様
箕川 裕様

どうぞよろしくお願い致します。

募 集 中

今まで「寺報」という題名で八十三号までやって参りましたが、皆さんに少しでも親近感を持って戴きたく思い、名称とか愛称のようなものを皆さまに伺いたく存じます。

手紙やファックス、直接でも結構です。アイデアをお寄せ下さい。採用された方には、参れく寺カードへ十ポイントをプレゼントします。是非沢山のアイデアをお寄せ下さい。

締切

十月十日



法要のご案内

夏の歡喜会法要が終わると、まもなく彼岸がやって参ります。彼岸会法要は、お中日の九月二十三日(月)十時より正念寺本堂においてお勤め致します。また、午後二時から久遠廟において納骨堂のお勤めをいたします。どうぞご縁のある方々のお参りをお待ちしております。

なお、十一月十八日(月)十九日には、報恩講法要がお勤めになります。報恩講とは、親鸞聖人のご苦勞に感謝させて戴く、聖人のご命日に因んだお勤めです。浄土真宗では最も大切にされてきたお勤めで、親鸞聖人がお亡くなりになった次の年から京都の大谷の御廟で途切れることなくお勤めされて参りました。今年のご講師は、若いながら全国を布教されている那珂湊館山の清心寺の副住職に「増田廣樹氏」をお願い致しました。とても判りやすい心温まるお話をされる布教使です。どうぞ楽しみにして下さい。

またことしも「報恩講スタンプリー」を行う予定です。こちらも楽しんで下さい。

彼岸会法要
九月二十三日(日)十時より

報恩講法要

十一月十八日(月)十九日(火)午後一時より

住職雑感

仏教のお説教から派生した「話芸」には、秋に行う「落語」の他、毎年永代経法要に来て戴いている「講談」などがあります。

落語や講談の世界で、高座や師匠・弟子、一席・二席などと言う言葉もすべてお説教で使われている言葉でしたし、現在も使われております。それだけ落語などの話芸と仏教のお説教の関わりは深かったわけです。

現在の法要でのお話は、高座でするお説教のスタイルから、机を前にして話をする、講義形式に変化して参りました。どちらが良い悪いという事ではありませんが、高座を使っているお説教のスタイルが、古くさいとか上から見下ろすような形は民主的でないとか言われて、一時は消えかかりました。それを復活させたのは、小沢昭一さんや永六輔さんといったタレントの方々から節談説教が再評価された事によります。

私たちは、ともすると見かけに囚われ、これが良いとか悪いとか判断しがちです。でも考えてみて下さい。本当に大切なことは、見かけでなくその中身なのではないでしょうか。どんな形であっても良い、お念仏の教えをしっかりと伝えて下され、私が領いていける。その中にこそ「真実」は見えてくるのではないのでしょうか。